二年歳の夢 未来に届け!

1月13日、成人式が行われ、本市では689人の方が大 人の仲間入りをしました。今の二十歳の皆さんはどんな ことを考え、どんな目標を持っているのでしょうか。 今月号では、「二十歳の夢 未来に届け!」と題し、 新成人4人のインタビューをお届けします。

短大では、1年生と2年生のときに、子どもたちが、2年生の実習のの年は人見知りして近寄って来なかの年は人見知りして近寄って来なかのがは、1年生と2年生のとき

)たちが寄って来てくれたんだよ」「安心感を与えていたから、子どてくれました。



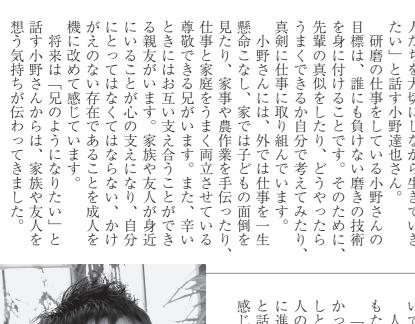
真里依さん (新白河)

4月から念願の白河保育とがとても嬉しく感じられ気持ちが子どもたちに届いという先生の言葉を聞いて

その目はとても輝いていました。たことを自らの糧にしていく筧さんの事にも全力で取り組み、経験し

話を聞くうちに、自分も子どもたち女子大学短期大学部幼児教育学科に進学しました。 筧さんは、保育士の母 話すのは筧真里依さん。 てくれる保育士になりた くれる保育士になりたいです」と「子どもたちが安心して寄ってき いは念願 保育士の母から仕事の 士の

* の たっゃ 小野達也 さん (大信増見)



芳賀優典さん (表郷三森)



救急救命 歩ずつ進んでいます。」を目指し、

新しいことにチャレの歳をきっかけに

ンジしたい

一と話す芳賀優典さん。しいことにチャレンジして

人の命を救いたいです」と話す鈴「救急救命士になってより多く 一と話す鈴木てより多くの

今までは、率先してみんなをまとめることはあまりなかった芳賀さんでしたが、20歳をきっかけに、新たなことに挑戦してみようと思い、成人式の実行委員長に立候補しました。 はましたが、成人として責任を果たしましたが、成人として責任を果たっとができ、達成感でいっぱいになりました。今回をきっかけに、いなりました。今回をきっかけに、いるなことにチャレンジしていきたいという気持ちが強くなりました。 たいという気持ちが強くなりました。 かっと遊んだりすることが良いリフレッシュになっています。

大切にしながら生きている分の周りにいる人たちを

きた

日票は、

しながら生きて しながら生きていき自分の周りにいる

人の命を救う仕事には、辛いこともたくさんあります。「救急車で駆け付け、助けられなかったとき、人の命の重さをひしひしと感じます。しかし、より多くの人の命を救うため、立ち止まらず前に進んでいかなかればなりません」と話す鈴木さんからは、強い意志が感じられました。

目に浮かびました。
「将来は自分の家族を持って、大質に浮かびました。明るく充実したと話を送る未来の芳賀さんの姿がにはいまない」と

ことが決まった筧さん。実習のときとは違い、責任の重さに不安でいっぱいです。しかし、応援してくれた家族のためにも、前向きに頑張っていこうと決めました。
「就職が決まったとき、家族のためにも、前向きに頑張ってが家族への恩返しになると思います。
一昨年の大地震のときは、祖母と一作年の大学が1か月遅れたり、家族の大切さを持って感じました。また、地震の影響で入学が1か月遅れたり、不便な生活と不安を抱える日々を経験し、何もない中和な日常がいかに幸せなことか身を持って感じました。
現在は、アルバイトをしながら残り少ない学生生活を送っています。
もこと、礼儀、積極性が身に付きました。 の白河保育園で働く、感じられました。たちに届いていたこだちに届いていたこ

春か